

2020年 第2回企画会議(第57回都公連研究大会)速報

日時 令和2年7月8日 14時～16時30分 町田市生涯学習センター6階会議室1
出席 増本(国分寺)、遠藤・木村(昭島)、大久保・中川・伊藤(小金井)、高下(国立)、久米(小平)、
富田(研修)、伊東・小笠原・岩松(顧問)、塩田・植松・斎藤(町田市)
欠席 須崎(日野)

1、開会 挨拶 塩田(町田市生涯学習センター長)

2、報告事項

(1)実施手法、開催可否についての役員会への報告

研究大会をやる方向で検討し、開催可否のタイムリミットを10月14日第4回企画委員会で決定し、11月10(火)の役員会に報告する。

(2)会場キャンセル料 6万円の使用料のうち付属設備内を除く18,850円に対し発生する6月24日～25%(4,713円)、12月25日～50%(9,425円)発生する。

3、協議事項

(1)大会趣旨・メインテーマ いろいろ議論したが下記に決定した。

メインテーマ 「コロナ時代に向き合う公民館」

サブテーマ ～ 新しい生活様式と公民館 ～

大会趣旨 別紙1で「新たなリーチのスタイル・・・」のところが全員が分かるかとの議論となり「新たな公民館のあり方・・・」になった。

修正した大会趣旨案

令和の公民館は、あなたにとって、あるいはあなたの家族にとって、どのくらい身近な存在でしょうか。令和元年に台風15号と19号が東日本や東北に甚大な被害をもたらした際は、日ごろの公民館活動が結果として住民の助け合いによる避難所運営支援につながったとの事例もあり、公民館は、改めて災害時の拠点としての役割が期待されるようになりました。しかしながら、令和2年には新型コロナウイルス感染症が流行し、今後の新しい生活様式が求められたことで、公民館活動においてもどのように活動・運営を行っていくかが問われるようになりました。

このように社会情勢や公民館を取り巻く環境が大きく変化していく中で、公民館が地域にとって「なくてはならない存在」であり続けるためには、新たな公民館のあり方を考えなくてはなりません。正解がない社会教育だからこそできる、地域に寄り添い、その地域のポテンシャルを引き出すような「問いを作る学び」を、いかに提供できるかが問われています。

そこで今大会は、これから公民館が地域とともにどのような未来を作り、どの様な想いをつなぐべきかを考えながら、新たな取り組みへの挑戦を決意する機会として開催します。

(2) 基調講演をお願いしたい講師の候補について(第1候補が1)

- 1、長澤成次(千葉大、放送大学)、2清國裕二(教職員支援機構つくば中央研修センター長)
- 3、近藤真司(日本青年館「社会教育」編集長)
- 4、佐々木英和(宇都宮大)

(3) 新型コロナウイルス対策を考慮した実施方法の検討

①集合形式による開催 参加人数を制限し感染症対策を講じつつ例年通り行う。

②オンライン会議システムによる開催 全員が参加できる保証がないのが欠点

③オンデマンド配信による開催 都公連のホームページにアップして配信

④資料の作成、配布 基調講演、課題別集会の内容を資料集にして配布

⑤DVDの作成配布 DVD再生機器があれば、見られる。

次回会議(9月2日)まで①の従来型を前提にしつつ、②、③、⑤の方法を詰めておき決める。

(4) 講師・助言者・事例報告者への依頼について

①依頼方法 事務局名で一括して依頼する。

②謝礼 基調講演講師 3万円、課題別集会助言者 2万円、
課題別集会の助言者 5,000円x10(人) (いずれも 交通費、税込み)

③お弁当 新型コロナウイルス感染防止対策のため、用意しない。

以上要約です。正式には議事録が発行されます。